



Little Diamonds

39

No.

●2008年12月25日●
発行：浦和レッドダイヤモンドズ

YOUTH

Jユースカップ 1回戦で姿消す ～三菱養和SCにPK負け

★Jユースカップ2008第16回Jリーグユース選手権1回戦が12月7日(日)行われ、浦和レッズユースは佐賀県のベストアメニティスタジアムで三菱養和サッカークラブと対戦。一進一退の展開から後半32分に山田直輝が先制ゴールを挙げたが、ロスタイムにセットプレーから追いつかれた。延長でも決着がつかず、PK戦の結果4-5で2回戦進出を果たせなかった。



後半、攻勢で山田が先制も ロスタイムに追いつかれる

今季、プリンスリーグとクラブユース選手権で対戦し、2度とも敗れている三菱養和SCが相手。レッズは立ち上がりからしっかりと組織を作ってボールを回した。前半は21分に原口が放ったシュート1本に終わり、逆に相手のシ

▶後半32分、山田の先制ゴールに仲間が駆け寄り(127 / 三菱養和戦)

ュートがバーに当たったりGK柴田のセーブに救われたりとピンチが多かったが、後半はボールを高い位置で奪って攻撃につなげるタイミングが良く、たびたび相手ゴールを脅かす。32分、濱田が中盤でタメを作って左の高橋へ送り、ドリブルで相手を引きつけた高橋の

クロスに山田が合わせて均衡を破った。しかしロスタイムも終了間近、深い位置からの相手FKをゴール前に上げられ、そこから同点とされた。延長ではレッズユースがほぼペースを握って攻めるがゴールを割れず、PK戦に持ち込まれて敗れた。



▲前半44分、相手のシュートを柴田がセーブする(127 / 三菱養和戦)

▼高橋はJユースカップ初出場(127 / 三菱養和戦)



▲後半から出場した鈴木(127 / 三菱養和戦)



▲前半21分、原口がシュートを放つ(127 / 三菱養和戦)

Jユースカップ2008 1回戦			
12.7(日) 14:01 / ベストアメニティスタジアム			
三菱養和SC		1	浦和レッズユース
前0	後1	前0	後1
延長	前0	延長	前0
後0	後0	後0	後0
観衆：200人			
0	原田祐輔	GK	柴田大地
0	花田 徹	DF	山地 翔
0	中村侑人		菅井順平
2	内堀 超		永田拓也
0	三沢祥馬		岡本拓也
(93分 / 畑本時央 0)			
1	石井拓也	MF	濱田水輝
(0	佐藤 聖 / 8分)		山田直輝
0	加藤 大		(87分 / 石沢哲也 1)
(1	近藤貢司 / 87分)		田仲智紀
1	安田 隆		
1	玉城峻吾		
1	田中輝希	FW	高橋峻希
(0	木村陽一郎 / 81分)		原口元気
2	中村 謙		(89分 / 高木 凜 1)
(1	志津森 究 / 85分)		磯部裕基
(65分 / 鈴木大輝 1)			
10	SH	SH	17
17	GK	GK	3
3	CK	CK	4
15	直FK	直FK	2
1	間FK	間FK	1
内堀 / 8分		得点	77分 / 山田
		警告	警告
		37分 / 磯部(ラフプレー)	
		49分 / 岡本(ラフプレー)	
5 PK戦 4			
玉城	○	○	高橋
木村	○	○	濱田
安田	○	○	田仲
佐藤	○	○	石沢
三沢	○	×	鈴木

Jユースカップ 予選リーグは3勝2敗1分けてグループ2位

～柏に未勝利で終わる

★Jユースカップ予選リーグは、柏レイソルU-18、アルビレックス新潟ユース、川崎フロンターレU-18とともにDグループに入り、ホーム&アウェイ全6試合を行った。レッズユースは10月19日(日)の初戦で柏U-18と対戦し、逆転負け。その後、新潟ユース、川崎U-18に連勝し、11月9日(日)柏と再戦したが、完封負けを喫しグループ1位がなくなった。第5戦で新潟ユースに快勝し、決勝トーナメント出場権のあるグループ2位を確定。最終戦では川崎U-18と雨の中、熱戦を展開し、2-2で引き分けた。

柏U-18にはクラブユース選手権関東予選の順位決定戦で2-7と大敗しており、Jユースカップでの雪辱を期したが、今季は柏に未勝利で終わった。

Jユースカップ2008 予選リーグ第1戦

10.19(日) / 埼玉スタジアム第4グラウンド

浦和レッズユース	1	前1 後0	VS	前1 後2	3	柏U-18
GK	柴田大地					
DF	岡本拓也(岸 幸太郎/8分) 山地 翔(石沢哲也/67分) 菅井順平 永田拓也					
MF	濱田水輝 山田直輝 田仲智紀(和田祐樹/66分)					
FW	原口元気 真本啓太(武富尚紀/66分) 磯部裕基(池田涼司/88分)					
レッズ得点者	磯部 (1分)					



▲菅井順平 (10.19 / 柏戦)

和田祐樹 (10.19 / 柏戦)▶



◀磯部裕基 (10.19 / 柏戦)



▼岡本拓也 (10.19 / 柏戦)



Jユースカップ2008 予選リーグ第2戦

10.25(土) / 東北電力スワンフィールド

新潟ユース	1	前0 後1	VS	前0 後2	2	浦和レッズユース
GK	柴田大地					
DF	岡本拓也(森田健介/57分) 山地 翔 菅井順平 永田拓也					
MF	濱田水輝 山田直輝 田仲智紀(岡田昌巳/89分)					
FW	武富尚紀(池西 希/81分) 矢島倫太郎(石沢哲也/72分) 磯部裕基(鈴木大輝/90分)					
レッズ得点者	山田 (52分)、濱田 (8分)					



▲山田直輝 (10.25 / 新潟戦)



▲濱田水輝 (10.25 / 新潟戦)



▲岡田昌巳 (10.25 / 新潟戦)



▼武富尚紀 (10.25 / 新潟戦)

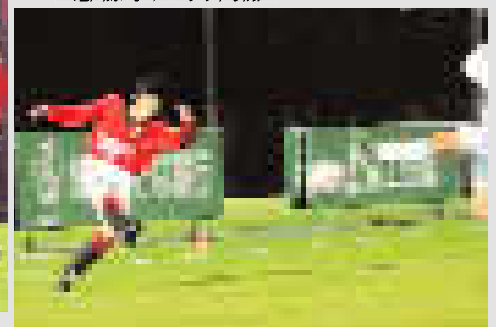
Jユースカップ2008 予選リーグ第3戦

11.2(日) / 大原サッカー場

浦和レッズユース	1	前0 後1	VS	前0 後0	0	川崎U-18
GK	柴田大地					
DF	池田涼司(岡本拓也/88分) 濱田水輝 菅井順平 永田拓也					
MF	池西 希(鈴木大輝/89分) 山田直輝 田仲智紀					
FW	岸 幸太郎(磯部裕基/89分) 真本啓太(岡田昌巳/89分) 石沢哲也					
レッズ得点者	岸 (57分)					



▲岸幸太郎 (11.2 / 川崎戦)



▼池田涼司 (11.2 / 川崎戦)

ジュースカップ2008 予選リーグ第4戦

11.9 (日) / 日立柏サッカー場

浦和レッズ ユース 0 前0 後0 VS 前1 後1 2 柏U-18

GK	柴田大地
DF	池田涼司 (岡本拓也/88分) 山地 翔 (利根川良太/77分) 菅井順平 永田拓也
MF	濱田水輝 山田直輝 田仲智紀
FW	岸 幸太郎 (磯部裕基/46分) 真本啓太 (鈴木大輝/82分) 武富尚紀 (石沢哲也/82分)



▼真本啓太 (119 / 柏戦)



▲田仲智紀 (119 / 柏戦)

ジュースカップ2008 予選リーグ第5戦

11.16 (日) / レッズランド

浦和レッズ ユース 3 前2 後1 VS 前0 後0 新潟ユース

GK	柴田大地
DF	岡本拓也 山地 翔 菅井順平 永田拓也
MF	濱田水輝 山田直輝 (石沢哲也/28分) 田仲智紀 (岡田昌巳/64分)
FW	原口元気 (鈴木大輝/46分) 真本啓太 (高木 凜/64分) 磯部裕基
レッズ得点者	山田 (12分)、磯部 (23分)、鈴木 (77分)



▼池西 希 (11.16 / 新潟戦)



▲山地 翔 (11.16 / 新潟戦)



▲石沢哲也 (11.16 / 新潟戦)



▼永田拓也 (11.16 / 新潟戦)

ジュースカップ2008 予選リーグ第6戦

11.24 (月) / 等々力競技場

浦和レッズ ユース 2 前1 後1 VS 前1 後1 2 川崎U-18

GK	柴田大地
DF	森田健介 山地 翔 (畑本時央/36分) 菅井順平 永田拓也
MF	濱田水輝 田仲智紀 石沢哲也 (広瀬健太/68分)
FW	利根川良太 (若井祥吾/89分) 真本啓太 (高木 凜/46分) 磯部裕基
レッズ得点者	磯部 (18分)、田仲 (89分)



▼畑本時央 (11.24 / 川崎戦)



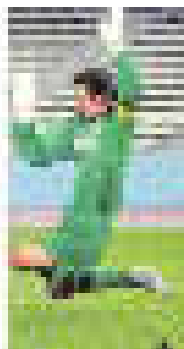
▼森田健介 (11.24 / 川崎戦)



▲高木 凜 (11.24 / 川崎戦)



▲若井祥吾 (11.24 / 川崎戦)



▼利根川良太 (11.24 / 川崎戦)



▲広瀬健太 (11.24 / 川崎戦)



第20回全日本ユース(U-15)選手権 関東予選で姿消す

11月9日(日)行われた、第20回全日本ユース(U-15)選手権関東予選1回戦で、レッズジュニアユースは前橋FCに敗れ、全国大会出場はならなかった。

埼玉スタジアム第4グラウンドで行われた前橋FC戦、先制されたレッズジュニアユースはFKから小出啓太のゴールで同点に追いつくがロスタイムにまたも勝ち越された。後半半ばにオウンゴールで3点目を失ったが、攻撃の枚数を増やして反撃し、矢島慎也のゴールで1点差に。さらに攻勢が続けたがシュートがバーに当たったり、チャンスにシュートを外したりとゴールを割れず、そのまま敗れた。



小出啓太(119/前橋FC戦)

高円宮杯全日本ユース(U-15)選手権 関東予選 1回戦	
11.9(日)/埼玉スタジアム第4グラウンド	
浦和レッズ ジュニアユース	2 前1 後2 後1 3 前橋FC
GK	関口亮助
DF	小出啓太 西山航平 西山 奨(島貴央里) 新井純平
MF	片 横吾(堀田 稜) 西澤秀平 鈴木悠太 繁田秀斗
FW	矢島慎也 関根貴大
レッズ得点者	小出、矢島



鈴木悠太(119/前橋FC戦)



矢島慎也(119/前橋FC戦)



島貴央里(119/前橋FC戦)



関根貴大(119/前橋FC戦)

今季のユース、ジュニアユースをふり返って

~レッズユース・堀 孝史 監督 / レッズジュニアユース・名取 篤 監督

レッズのファンが求めるサッカーを 堀 孝史

今季は、高円宮杯で優勝したということ。そして選手が来季4人トップに昇格することができたということが、成功した点だと思います。今回昇格しない選手たちも、サッカーはまだまだ続いていきますし、とりあえず18歳までという区切りでは、答えが出たわけですが、プロになるという気持ちがあるなら今後も目標を持ち続けて欲しいと思います。

高円宮杯優勝については、まず選手たちの資質も含めてサッカーに取り組んできた姿勢の表れだと思います。また今年だけの成果ではなくて、ジュニアユース時代からのもの、あるいは小学生時代の指導者や親の努力も大きいと思います。それとクラブの対応もそれを目標に据えたものだったと思います。

一方、大会で優勝を目指していく中で、クラブユース選手権のように予選リーグで敗退したり、Jユースカップのように1回戦で姿を消したり、ということがありました。難しいのはチームを作っていき中で、今季は能力が高い選手が多くいたので、他の選手に出場機会を与えてもなかなかその差が埋まらなかったということです。

レッズのサッカーはジュニアユース時代から、培ってきたものがありますから、それを無駄にすることなく、さらに僕自身の考えをプラスしてやってきました。僕自身が選手でやってきたときに、レッズのファン、サポーターが何を試合に求めているかな、というのを思い出してみると、それは攻撃にしても守備にしても、積極的にボールを取りに行っているときでした。それを去年から選手たちに伝えていました。また多くの人がユースの試合も見に来てくれますが、その人たちはチームに大変力を与えてくれるのだから、選手も何かを返さないといけないんじゃないか、ということをかかり言っています。そういうものを高円宮杯の決勝で見てもらえたと思えば良かったと思います。

今季、柏と三菱養和に勝てなかったというのは、相手が強かったということだと思います。ただ強い相手に対して、そこに勝つために何かを変えるというより、自分たちらしさをより出すことで勝つことを目指しました。試合の中で起こったことに対して選手自身が考えて対応していくのを大事にして、選手たちがベンチを見て指示を待つようなことは避けたいと思っていました。システムがどうこうとか、他の選手がどうだとかいうことに逃げる選手であっては欲しくありません。もちろん結果については指導者が責任を持ちますが、選手たちには結果を恐れずにトライして行って欲しいです。は求めていると思います。

競争し合いながらも雰囲気良く戦えた 名取 篤

関東リーグは、公式戦でもあり翌年のシード権もかかっている大事な大会ですが、リーグ戦ということで、勝つことを目指しながらもメンバーを替えるなどいろいろなことができ、また関東のJの下部組織とできるということでも有意義な大会です。4月から始まって10月に終わるという、長く続く大会で、選手たちの技術や体力だけでなく、サッカー以外のことも含めた教育の場にもなっています。最終的に5位で、翌年の出場権を確保できたのは重要なことだと思います。

一方、クラブユース選手権や高円宮杯の関東予選はトーナメント戦ですから、何としても勝たなければなりません。そういう大会の中で、指導者がプレッシャーをかけるよりも、選手たち自身に前年の成績より上に行きたいとか、全国大会に出たいとかいう気持ちが高いですから、緊張感を持ってやっていったと思います。その結果、クラブユースでは勝ち抜くことができましたが、高円宮杯では関東予選で敗れてしまいました。

今季の3年生は春の県の新人戦でベスト4で負けたりしていたので、関東や全国でどれだけできるか、という気持ちもあったのですが、夏のクラブユース選手権で全国3位になったというのは、成長した証明だと思います。先制されてもあきらめずに、追いついて逆転するという試合が多かったです。関東リーグの中で成長してきたことが生かされた部分もあったと思います。

ジュニアユースでは、毎日の練習を見て選手を試合に起用していますが、メンバーから外れた選手が次の試合に向けて練習でアピールする、ということができていますので、たとえばクラブユース選手権でJヴィレッジに行ったメンバーは誰が出てチーム力が落ちることはなかったと思います。みんなが競争し合いながら、雰囲気良く戦えたと思います。

3年生の中で9人が来季ユースに上がりますが、これから伸びると思われるメンバーも含め、プロを目指して良い競争ができると思います。また1年生や2年生でAチームに出た選手は良い経験になったはずですが、これを来季に生かしてほしいと思います。

トップチームでジュニアユース出身の堤が先発したり、ユースから来季4人昇格するというのは、いつも隣で練習しているジュニアユースの選手にとっても励みになります。将来は常に何人かの出身選手がトップチームで出ているようになってほしいですし、さらに日本代表でも活躍すること。これが下部組織の目標ですから、それを目指してこれからも頑張ります。